

石川県輪島市受託研究に伴う調査

廻船問屋角海家の襖下張り文書と 民具資料に関する調査報告

田上 繁

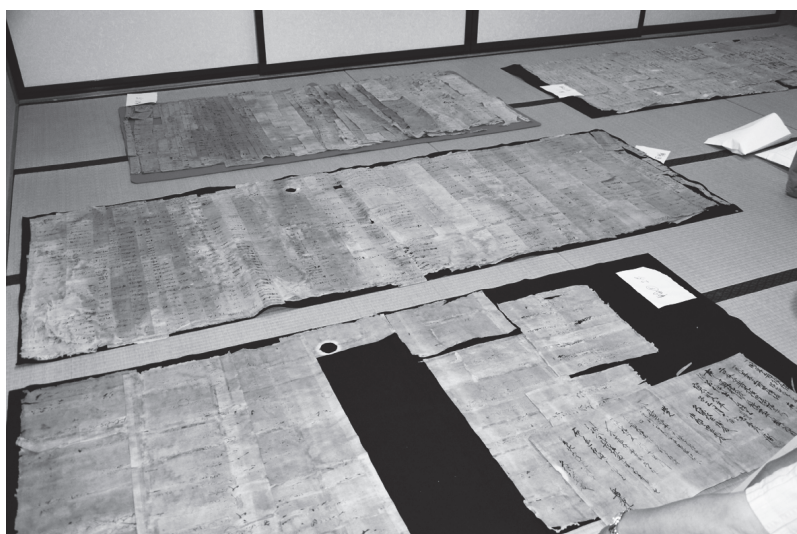


写真1 剝離した襖の下張り文書（2014年8月）

本研究所では、2007年3月の能登半島地震で被災し半倒壊した輪島市門前町黒島に所在する、江戸後期・明治初期に廻船問屋を営んでいた角海家について、2008年度より輪島市の委託事業として民俗資料調査、および角海家の襖下張り文書調査を推進している。

調査対象となった民俗資料は、6,000点を超える角海家に收藏されている日常的な生活用具と生業に関わる道具類

である。2011年度には、角海家の住宅と蔵の復元が完成し、民具整理修復保存のための方法の実践を兼ね、地元の方々を対象に鉄製民具の錆落としワークショップも行った。

一方、襖下張り文書については、角海家には破損した襖下張り文書のほか、屏風下張り文書や畳上敷き下張り文書などが大量に残されており、ほぼすべてを大学へ移送して剝離作業を進めている。特に、畳上敷き下張り文書は、縦横とも2m前後の大型のもので、周囲に押しピンの穴がいくつも開いていることから判断して、畳の上に敷く上敷きとして利用するために作成されたものと考えられる。その畳上敷き下張り文書に張られていた文書の大部分が、日本海を舞台に活動した北前船に関するものである。廃棄されるはずの廻船問屋の文書が、畳上敷き下張り文書として再利用されている事実は注目される。

2014年度の活動

2014年度は、輪島市門前町黒島角海家の現地調査を2回実施した。第1回は2014年8月24日～29日の日程で歴史民俗資料学研究院生を含む11名が参加したが、この調査は、民俗資料整理班と歴史文書班の合同で実施した。民俗資料班は、主に塩蔵2階収蔵資料の整理、注記作業、地元保存会員による錆落とし作業などを進めた。角海家の最終的な民具件数は、2,564件（6,575点）を数える。歴史文書班は、この現地調査で地元の方々に参加する襖下張り文書の剝離作業ワークショップ



写真2 所蔵されている民具を整理 (2014年8月)



写真3 民具の錆を落とす作業 (2014年8月)



写真4 錆を落とした鉄器類 (2014年8月)

を行った。第2回は2015年3月4日～5日の日程で3名が「角海家」に赴き、補充調査として民具資料の未撮影資料を撮影した。

大学では、大学に搬送済みの襖下張り文書や畳上敷き下張り文書の剝離、洗浄、封入作業を進めた。これらは、本誓寺の襖下張り文書の剝離作業など次年度へも継続されるが、民俗資料班の作業は2014年をもって完了した。なお、剝離作業を終えた角海家文書は、すべて輪島市教育委員会に返還されている。